

展示教室	パネル番号	ポスターのタイトル	出展団体	出展責任者	ポスターの内容
1503	1	住民主体の新たな移動・外出支援 ～全国の事例～	NPO法人全国移動サービスネットワーク	伊藤 みどり	高齢者の買物・通院・サロン送迎について、新しい総合事業メニューの1類型「訪問型サービスD(移動支援)」等の導入や、「社会福祉法人に義務づけられた公益活動」としてデイサービス空車両を活用するなど、支えあいの移動・外出支援活動が全国各地で徐々に広がっている。情報提供を求める市町村が多いことから、本ポスターセッションで先行事例をいくつか紹介する。あわせて、11/24(金)に開催する「移動・外出を多様なサービスで推進するセミナー in 札幌」のアナウンスを行う。
1503	2	ワーカーズ・コレクティブによる福祉有償運送の実践	神奈川県ワーカーズ・コレクティブ連合会 移動部門会議	菅野 待子	W.Coによる移動サービス(福祉有償運送)の概要。単なる移動ではなく、付き添い付きのベッドtoベッドのサービスです。高齢化、孤立化をカバーする活動です。障がい者の方の生活の質の向上のための支援もしています。神奈川県内で、地域の人の力と社会的資源を生かし、お互い様の助け合いの活動を25年間続けてきました。
1503	3	中山間地域に必要な社会システムとは	名古屋大学	剣持 千歩	中山間地域では、車の運転が難しくなる高齢者は、医療や買い物など生活していくために不可欠なサービスを受けることに制限がかかります。そこで、我々は、豊田市の足助地区をフィールドに、地域バスや、タクシー相乗り、マイカー相乗りなど、多様な交通手段の提供と情報の一元化により、その時々で最適な交通手段選択可能性を向上させることで、エイジング・イン・プレイスを実現させる取組を行っています。
1503	4	交通機関における認知症者の対応の現状	交通エコロジー・モビリティ財団	松原 淳	現在、認知症者は440万人と言われており、2025年には約700万人にあがると試算されています。認知症者の対応については交通の現場ですでに課題となっています。交通エコロジー・モビリティ財団では4月に「交通機関における認知症者の対応の現状」アンケート結果を公表し、さらに交通機関を利用する際にサポートをお願いする、『おでかけサポートカード』を公表しています。認知症者の外出を制限すると、認知症の進行を進める弊害もあります。地域が連携して認知症者をケアしなければ交通事業者の負担が増えるばかりでなく、家族にも負担がのしかかり、ついには社会全体の負担が増加する悪循環が生ずると考えられます。
1503	5	生活を支えるタクシーサービス	両備グループ タクシーユニット	大賀 直央	岡山県内を中心に東京から広島県尾道市までタクシー事業を展開しています。地域のお客様の生活を支える様々なサービスをご紹介します。①お墓参り・お墓掃除代行サービス／遠方にお住まいの方や高齢者のお客様の代わりに墓参り及び墓掃除を致します。②まごころタクシー便／高齢者・交通移動弱者のお客様に向けての救援事業。乗務社員がお客様の代わりに買い物。③こうのとりのりタクシー／妊婦のお客様に安心してご乗車頂くための陣痛時の優先お迎えサービス。事前登録制で迅速対応。④おこさまタクシー／お子様のみでも安心してタクシーにご乗車頂けるサービス。乗車、降車の連絡によりお子様の状態が分かるので保護者の方も安心です。

展示教室	パネル番号	ポスターのタイトル	出展団体	出展責任者	ポスターの内容
1503	6	トラベルヘルパーと行く超高齢社会の旅	NPO法人 日本トラベルヘルパー協会	篠塚 恭一	要介護になってからの新しい旅のカたち。トラベルヘルパーがいればどんなところにも旅ができます。日常のちょっとしたお出かけから世界一周の海外旅行まで。介護旅行の事例をご紹介します。
1503	7	介護事業者 ネットワーク によるリハビリテーションとしてのバス利用	東北大学大学院医学系研究科	馬場 美彦	要介護高齢者は、自宅に引きこもりがちになります。公共交通を利用して「おでかけ」することは、介護予防・リハビリテーションの効果、レクリエーションとしての効果もあります。しかしながら、ふだん車椅子を利用している要介護高齢者は、通常の路線バス等を利用することは困難です。2016年から、要介護高齢者が公共交通を利用できるよう、路線バスを貸切りリハビリテーションを行っています。本研究では、昨年1年の成果を報告いたします。
1503	8	世田谷区福祉移動支援センター(そとでる)の活動	特定非営利活動法人せたがや移動ケア	鬼塚 正徳	世田谷区福祉移動支援センター(そとでる)は、一人では外出が困難な利用者のために、介護タクシーや移送NPOの配車手配を中心として、外出相談、移送の担い手育成の研修、事業者同士や地域との連携の推進、配車やそのニーズのデータ収集と公開などを業務としています。その様子とそとでるが事務局を担当するボランティアグループ「おでかけサポーターズ」の活動などを報告します。
1504	9	低速電動バスを用いた条件不利地域の公共交通モデルの検討	群馬大学	天谷 賢児	低速の電動バスを高齢者が多い条件不利地域の足として運行し、路線バスや駅への接続を行う実証試験を行った。利用者の反応やバスの導入に伴う行動変容を調査した。その結果、外出頻度や地域内でのコミュニケーションが増えることが確認できた。これらの結果をもとに、公共交通として導入する場合の課題を議論する。
1504	10	条件不利地域におけるwithin one mileに関する研究ー北九州市八幡東区枝光地区ー	九州国際大学	神力 潔司	高度経済成長やそれに伴う都市の拡大により自家用車が普及し、鉄道・路線バスの廃止により公共交通空白地域が拡大した。さらに、近年では高齢化の進行により従来は移動可能であった人や地域の中で新たなWithin One Mileの公共交通空白地域が拡大している。このような地域でありながら、全国でも稀な独立採算を確保している北九州市枝光地区における乗合タクシーおよびタウンマネジメント事業を対象に、Within One Mileの課題を克服するモデルを紹介する。

展示教室	パネル番号	ポスターのタイトル	出展団体	出展責任者	ポスターの内容
1504	11	地域内や観光地における電動小型低速車の活用	公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団	熊井 大	我が国の地方における公共交通の衰退は、マイカーの増加に伴い環境負荷が増大する等の問題を引き起こしている。今後の更なる低炭素社会を見据えたときに、環境負荷の少ない電動小型低速車は、歩行者とも共存できる新たなモビリティとして、地域内における生活の足や観光地での移動手段として、その解決策の一つになることが期待されている。 当財団は平成28年度から本事業に取り組み、平成26年から公道走行が可能になったゴルフカートの国内の事例調査や活用シナリオの検討、セミナー開催等を行った。平成29年度は事例調査の拡大と実証実験に向けた検討を行っている。
1504	12	菱野団地住民バスの取り組み	菱野団地コミュニティ交通運行協議会/早稲田大学	井原 雄人	愛知県瀬戸市菱野団地地区で行われている住民バスの取り組みの紹介を行います 住民バスとは自治会、地域力向上委員会など、地域のみなさんが協力し合って運行するバスであり、運転手さんは地域のボランティアさん達です。 高齢化が進みおでかけが困難となった住民を商店街・病院・NPO施設や、バス停留所、タクシー乗り場までの日常生活を支えるための交通として運行します。
1504	13	横浜開港祭サイクルピクニック	一般社団法人カーフリーデージャパン	山口 千恵	今年6月2,3日(金,土)に開催した「横浜開港祭サイクルピクニック」というイベント(セブン-イレブン記念財団助成事業)の活動報告、及び、モビリティウィーク&カーフリーデーについての紹介。横浜開港祭サイクルピクニックは交通まちづくりに基づく取組みで、「自転車の正しい乗り方」、「自転車の楽しさ」、「交通とまち(人と環境にやさしい交通が優先のまちの豊かさ)」をPRしての自転車利用推進の啓発を目的に開催した。
1504	14	都市と交通の将来を担う技術者の養成	富山大学都市デザイン学部都市・交通デザイン学科(30年4月開設)	中川 大	都市と交通の将来を担う人材を養成するため、富山大学では30年4月に、都市デザイン学部・都市・交通デザイン学科を開設します。土木技術の基礎を修得したうえで、都市と交通の将来に向けてのビジョンを描き、実践できる技術者を養成します。 富山は先進的な都市交通政策を実施している地域でもあり、産官学民連携で実践的な講義(PBL)を実施するなど、新しい技術者養成プログラムを実施します。あわせて都市交通政策支援ユニットを設置し、社会人の政策技術者の養成や、自治体等の事業の支援を行います。
1504	15	「おでかけ機会」を創出する地域公共交通の活性化	福島大学経済経営学類吉田ゼミ	浅倉 笙清	吉田ゼミは、「交通」と「観光」の視点からまちづくりに実践的にアプローチをしており、現在取り組んでいる2つの活動を紹介します。 1つ目は、会津若松市の「おちょこパス」です。市内を運行する「まちなか周遊バス」の一日乗車券に、会津塗のおちょこを採り入れ、市内の店舗で試飲や特典が受けられるなど、「まちあるき観光」を促進するためのツールとして開発しました。 2つ目は、白河市の「より道タクシー」実証実験です。タクシーの定額制を導入し、自主的な相乗りを可能にする一方、市街地の最初の目的地から次の目的地までの「より道」にもタクシーが利用できることで、タクシー産業と市街地の活性化の両立を目指しています。

展示教室	パネル番号	ポスターのタイトル	出展団体	出展責任者	ポスターの内容
1504	16	ハンドル型電動車いすの鉄道利用に関する実験	東洋大学	高橋 良至	筆者らは移動制約者の行動範囲を拡大するために、短距離移動を支援するパーソナルモビリティビークルと公共交通機関を組み合わせた移動を提案している。本報告では、パーソナルモビリティビークルとしてハンドル型電動車いすを用いて、実際に公共交通機関との連携を行う予備実験を実施した結果について述べる。
1505	17	自治体運営公共交通のオープンデータ整備における官学連携の取組み	九州産業大学	稲永 健太郎	全国各地で自治体が運営主体である公共交通のオープンデータを整備する取り組みが始まっている。福岡県では、糟屋郡新宮町のコミュニティバスならびに渡船の事例を皮切りに、オープンデータ整備の動きが進んでいる。本発表では、県・市町村・大学が連携したオープンデータの整備の取り組みについてその詳細を紹介する。
1505	18	「バス停検索」サービスとデータ更新しているコミュニティのご紹介	バス停検索	福田 匡彦	全国のバス停を地図上から探せる無料サービス「バス停検索」の運営手法とデータを更新しているコミュニティのご紹介。 路線バス関連データは膨大で維持は難しいものですが、一部地域では全国の有志により日々データ更新を行っています。 また、バス事業者や自治体担当者向けにバス停データ提供やオープンデータ化をして頂きたい旨についてもご説明します。
1505	19	運輸デジタルビジネス協議会—TDBC—の取組み	運輸デジタルビジネス協議会	鈴木 久夫	運輸デジタルビジネス協議会(TDBC)では、運輸業全般の課題を解決するため、多数の運輸事業者とサポート企業がオープンイノベーションスタイルで議論、実証実験をはじめ各種の取り組みを行っています。本日は協議会のいくつかのワーキンググループで研究している取り組みをご紹介します。
1505	20	多様な地域に対応した交通や移動のあり方を考える	特定非営利活動法人 ITS Japan	大岩 昭泰	ITS Japanでは、自治体、関連活動主体者との情報連携や交流活動などを通じて、“地域ITS”に取り組んでいます。地域住民の生活向上と経済の活性化に向けて、交通や移動の諸問題を、まちづくり、環境、福祉、防災・減災等の様々な視点で捉え、IT技術の活用により解決を図ります。これまでの地域ITS活動を活かしながら、国・自治体の動きと連動して、多様な交通手段による移動環境改善に資する基盤づくりの提言・推進に取り組んでいきます。

展示教室	パネル番号	ポスターのタイトル	出展団体	出展責任者	ポスターの内容
1505	21	「標準的なバス情報フォーマット」のすすめ	標準的なバス情報フォーマット広め隊	伊藤 昌毅	2017年3月に国土交通省が公開した「標準的なバス情報フォーマット」を採用したバスのデータ整備が始まっています。路線バスの路線図やダイヤ情報をこのフォーマットで整備し公開することで、乗換案内サービスへのデータ提供や、デジタルサイネージなどとの連携が容易になります。この発表では、データを整備するためのツールや全国の事例を紹介し、スマホやインターネットに向けて公共交通をアピールし、利便性を高めましょう。
1505	22	バスの利用情報案内ツール「バスマップ沖縄」の取り組み	バスマップ沖縄	谷田貝 哲	沖縄県内の公共交通利用情報案内ツール「バスマップ沖縄」の展示、配布および、活動を通じて手掛けてきたその他の取り組みについて紹介いたします。昨年度は、産学連携による低コストなバスロケーションシステムの開発にも参画しました。
1505	23	車内案内表示システム+乗降客数カウンター「馬須田のるぞう」の機能と導入事例	株式会社バイタルリード	宮下 和也	バスの車内案内表示システムに乗降客数カウント機能を付加した「馬須田(ばすだ)のるぞう4」の機能と、中山間地域を中心とした導入事例について紹介する。「今どこを走っているのか?」「降車バス停を間違えないか?」といった利用者の不安と、「乗降人員を安価かつ簡易な方法で把握したい」「遅れ時分や利用者数を常時計測することで運行効率化やサービス改善に生かしたい」といった交通事業者のニーズの双方を解決する手段として活用している地域の取組みを報告する。
1508	24	「生活バスちばにう」新路線の展開と今後	生活バスちばにう友の会	武藤 弘	千葉ニュータウンの住民支援型路線バス「生活バスちばにう」は最初の運行から4年目を迎え、今年7月には新たに北環状線ルート・牧の原循環ルートの2路線が運行を開始しました。今回のポスター発表では、これらの新たな路線展開やその成果を中心に、地域による利用促進の取り組みや今後の活動方針についてもご紹介したいと思います。
1508	25	鉄道の再評価と啓発	NPO法人ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)	清水 省吾	2016年3月の福井の鉄道改革と再生。きっかけとなったのは2001年の京福電鉄(えちぜん鉄道の前身)の事故による運行停止と存廃問題。電車は2年以上止まり沿線は混乱し、そこから啓発も行われ、地域全体での鉄道の再評価が起きました。この、鉄道の再評価と啓発について、福井から情報発信と提案を行いたいと思います。

展示教室	パネル番号	ポスターのタイトル	出展団体	出展責任者	ポスターの内容
1508	26	地方鉄道ネットワークのあり方	路面電車と都市の未来を考える会・高岡(RACDA高岡)	清水 省吾	2015年3月の北陸新幹線開業により、高岡では新幹線が分離駅となり城端線に接続するようになりましたが、城端線は本数が少なく、並行在来線・氷見線・万葉線は新幹線と直接乗り換えできないようになりました。この不便やちぐはぐ感を解消する方法として、パルスタイムテーブルなどの新しい概念を考察したいと思います。
1508	27	金沢市都心におけるLRT構想	金沢・LRTと暮らしを考える会	清水 孝彰	金沢市は都心軸への「新しい交通システム」の導入を検討しており、本年2月には検討委員会が「地上における専用走行空間を持つBRT及びLRTの導入が適当」と提言しました。当会は、クルマ依存の市民のライフスタイルを見直すことを視野に入れつつ、既存の鉄道やバスと連携する形で都心部にLRTを導入できないかと考え、市民の立場から提言等の活動を行っています。金沢市都心のメインストリートにLRTを導入した場合の道路空間のイメージをお見せします。
1508	28	ボランティアと町内会による交通不便解消の取り組み	千福が丘交通施策の会	白木 浩司	富士山麓の市郊外のニュータウン、少子高齢化と人口減少が進行しており、交通不便を解消することで街を活性化すべくボランティア組織を立ち上げました。昨冬、市街地とニュータウンを結ぶ路線バス事業者から、不採算路線であることを理由に退出意向が示されました。ボランティア組織では、町内会と協働で路線バス存続に向けての活動を実施し、10月の町内会臨時総会にて1年間の試行期間付でバス施策とバスを補完する施策を決議しました。本ポスターでは、ボランティア組織の活動経過と臨時総会の決議結果を報告します。有識者のみなさまにレビューして頂き、1年後のバス施策等見直しに生かしたいと考えています。
1508	29	市民とつくる横浜都市交通計画	横浜交通まちづくり協議会	松川 由実	横浜市では現在都市交通計画の改定を進めています。そこには市民代表として横浜市都市交通政策推進協議会の地域交通部会の部会長とモビリティ推進部会部会長が参加しています。地域交通部会は交通の部局と福祉の部局が共に地域交通について検討しています。この横浜市の取り組みを紹介します。
1508	30	地域バス(黄バス)の運行と地域の健幸	NPO法人くらしサポート越後川口	水落 優	NPOが地域で運行するバスと、地域活動の活性化についての紹介です。幅広い世代間を繋ぎ、地域を活性化させる取り組みについてご紹介します。

展示教室	パネル番号	ポスターのタイトル	出展団体	出展責任者	ポスターの内容
1508	31	ラクダ瓦版169号の軌跡	NPO法人公共の交通ラクダ	岡 将男	年13回開催の岡山市内中心部・京橋朝市において、ラクダでは交通まちづくりをテーマに、瓦版を配布している。毎回1000部。交通井戸端会議と称して様々な人々と意見交換してきた。瓦版内容と各地で講演会で使用するパワポを元に、政策集冊子「クリーンモバイル都市岡山をめざして2」を作成した。瓦版はホームページで公開中。
1509	32	つながるハマベビプロジェクト	ウィズベビーラボ	丸山 耕輔	レンタルベビーカーを通して地域・人がつながる、また公共交通利用促進にもつながる取組。横浜・みなとみらい地区発！5月に行った実験の紹介。アンケート結果などを紹介。
1509	33	バス旅ひょうご2017の取組について	兵庫県バス協会	佐藤 匡 (神姫バス)	昨年のフォーラムでも発表しました「バス旅ひょうご」キャンペーン。今年も取り組んでいます。今回の発表では昨年の振り返りと今回の取組み、そして今後の課題についてご紹介します。
1509	34	「被災地」から「日常」に向けて、暮らしと移動を守る取り組み	特定非営利活動法人 移動支援Rera	村島 弘子	東日本大震災に端を発し、移動手段のない被災住民の送迎を行ってきた当団体が、被災が洗い出した本来の地域課題と向き合わざるを得ない現状と課題、取り組みについてをご紹介します。
1509	35	子どもの成長過程に合わせた交通事業者によるMM教育プログラムの企画と実践	弘南バス株式会社	大野 悠貴	弘南バスでは、これまで行ってきた実車を用いたバスの乗り方教室を強化すべく、新たにMM教育プログラムの企画と実践を始めた。プログラムの内容は、学校教員や児童センター職員などの協力も得ながら、子どもたちの年齢や理解力に応じて複数のプログラムを企画・用意した。MM教育の実施によってバス利用につながったケースも確認でき、子どもたちが受け入れやすい効果的なMMを実施することができたと考えている。

展示教室	パネル番号	ポスターのタイトル	出展団体	出展責任者	ポスターの内容
1509	36	くらしの足に取り組む現場の声を届けたい	東京交通新聞社	武本 英之	交通事業者、自治体、行政、市民、企業…。くらしの足で地域を元気にしようと取り組むみなさんの声を多くの人に届けたい。より多くの人にくらしの足に関心を持ってもらい、いっしょに課題解決や将来を語る場に、との思いで取材活動を展開中です。ぜひ、お気軽にお声掛けください。
1509	37	設立5年目を迎えた井笠バスカンパニー	(一財)地域公共交通総合研究所	谷田貝 哲	(株)井笠バスカンパニーは岡山県西部の笠岡市、広島県東部の福山市を中心に5市1町に路線網を広げるバス事業者です。前事業者の突然の会社清算を受け、急遽路線網を引き継いでから今年で5年目を迎えました。運行本数も前事業者時代から減少したままで、利用者もなかなか増やすには至っていませんが、「みんなの足」として、まずはバスそのものを知り、親しんでもらおうと、さまざまな取り組みを行ってきました。本日はそれらの取り組みについてご紹介します。
1510	38	松江市公共交通利用促進市民会議の取り組み	松江市公共交通利用促進市民会議	安部 耕太郎	発足10年目を迎えた松江市公共交通利用促進市民会議。市民、事業者、行政が一体となってバスを中心とした利用促進に取り組み、人口減少社会の中、バス利用者数を増加傾向に転じることができました。今までの取り組みや各部会の活動について紹介します。
1510	39	1,000円タクシー国田号の実験～タクシーを活用した公共交通空白地区解消の取組～	水戸市	大嶋 実	水戸市では、日中の時間帯に路線バスが運行していない地区において、国のタクシー需要閑散時間帯割引運賃の実証実験を活用し、タクシーを利用しやすい環境を提供することで、住民の移動手段の確保に取り組みました。公共交通空白地区等における住民の移動手段として、タクシー活用の可能性を検討する取組事例を紹介します。
1510	40	デマンド交通導入時における地域住民への周知のコツ	エヌシーイー株式会社	高橋 貴生	本ポスターでは、地域にデマンド交通が導入されたときに、どのように地域住民に周知すればよいかについて、いくつかの事例をもとにコツを報告する。

展示教室	パネル番号	ポスターのタイトル	出展団体	出展責任者	ポスターの内容
1510	41	豊田市における多様かつ持続的な地域公共交通ネットワークの構築	豊田市・(公財)豊田都市交通研究所	福本 雅之	愛知県豊田市では市町村合併により中山間地域を含め広域化した市域における公共交通ネットワークの確立をめざし、基幹バス・地域バスの運行をはじめとして、企業と共働した超小型EVのシェアリングなども組み合わせた取り組みを行っている。本ポスターではこうした取り組みの概要について発表する。
1510	42	「地域公共交通ネットワークの形成」、「地域公共交通の活性化及び再生のため、次の10年に向かってなにをなすべきか」	国土交通省 総合政策局 公共交通政策部 交通計画課	河野 桃	【地域公共交通ネットワークの形成】 地域公共交通ネットワークは、自治体・交通事業者・住民の皆さんがみんなで形作るものです。地域が一体となって、より良い地域の公共交通のビジョンとなる計画を作成するためのポイントをお伝えします。 【地域公共交通の活性化及び再生のため、次の10年に向かってなにをなすべきか】 平成19年に地域公共交通活性化再生法を制定してから、地域公共交通をとりまく環境は大きく変化してきました。 これを受け、今後10年を見据えた中長期的な視点から、地域公共交通の活性化・再生の取組の方向性について、提言をとりまとめましたので、その概要をお伝えします。
1511	43	Smart Access Vehicle (SAV)	株式会社 未来シェア	松舘 渉	オンデマンド・リアルタイム・ライドシェアを実現するAIシステム「SAV」と、地域全体の交通最適化を目指すサービスの概要を説明します。
1511	44	バス運転手専門の求人サイト・バスドライバーnavi(どらなび)	リッツMC株式会社(どらなび)	二瓶 亮介	【ポスターの内容】●バス運転手が不足しています！バス運転手の高齢化、若年層・女性運転手の不足●バス運転手が必要です！高齢化社会、訪日外国人観光客の増加、来たる東京オリンピックに向けて●「どらなび」について国内唯一のバス運転手に特化した求人サイト「どらなび」では、バス事業者の採用活動をバックアップ。インターネットを通じて24時間365日全国の求人情報を掲載頂けるため、都市圏だけでなく地方のくらしの足を求人面から支えます。
1511	45	女性バス運転手が活躍する明日へ これからの「女性バス運転手」という生き方。	一般社団法人女性バス運転手協会	中嶋 美恵	●国内の女性バス運転手比率はわずか1.5%・・・。 国外では5:5という国もあります。 ●深刻なバス運転手不足の解決に女性の採用は欠かせません。 ●女性バス運転手のコミュニティ形成、リサーチ・マーケティングにより、課題を抽出し、 情報を発信し、採用～定着へ導くことを目的としています。

展示教室	パネル番号	ポスターのタイトル	出展団体	出展責任者	ポスターの内容
1511	46	外出移動支援・地域活性化を創るタクシーシェアリング狭域限定近距離運行	株)エディラインソリューションズ・おもいやりタクちい倶楽部	松田 吉広	現在価値として地域公共交通維持確保改善事業(バス運行)を支援する、タクシー活性化事業のひとつとして考案したBtoGビジネスです。将来価値としては自動運転ロボットタクシー運行の土俵づくりに繋がり、タクシー事業がラストワンマイルビジネスという新たなビジネスモデルを創造構築できます。法規適合性/社会受容性、利用者/使用者実態の社会実証実験を通して国交省の効果評価を賜わり公認事業として展開はじめました。
1511	47	2次交通活性化ソリューション	株式会社ユニ・トランド	布川 和基	ユニ・トランドの「バス路線検索サービス」は、IoT技術を活用した移動体向けデータ活用、監視ソリューションです。地方路線バス事業者の多くが抱えるバス利用者数減少の課題に対し、「バス路線検索サービス」は、バス利用者の立場から、利用をためらってしまう不安要素の「バス停の場所・名前がわからない」、「時刻表が複雑」、「所要時間がわからない」、「乗り換えがわからない」などを簡単かつ分かりやすい検索機能の充実によって解消するものです。
1511	48	高齢者が、気兼ねすることなく決済できるタクシーにしよう！	株式会社エム・ピー・ソリューション	黒岩 高行	山形県米沢市の全タクシー会社は、KAZAPi(かざっぴ)の導入を決めました。米沢市では、高齢者比率がとても高く、足腰が弱ってきている方も増えているため、買い物へ行く足としてタクシーの利用が増えています。しかし最近では、指先も思うように動かせず、お財布からお金(特に小銭)を迅速に出せなくなり、金銭のやり取りをしている間に、渋滞を作ってしまった経験を持つ高齢者が、気兼ねすることなくタクシーに乗ることができなくなった。その対策も兼ねて、米沢市のタクシー会社は、クレジット・電子マネーが1台で決済できるKAZAPi(かざっぴ)の採用を決めた。
1511	49	タクシー注文スマホアプリ「ゆびタク」	株式会社システムオリジン	畑山 久記	タクシー利用者との関係を強化し、より深いサービスを提供する。それは、やはり個社のオリジナルサービスをより広く知ってもらい、より使いやすく提供する事が一番の近道だと思います。このアプリの基本的な機能は「タクシーをスマホで呼ぶ」とありふれたモノですが「タクシーを呼ぶ」のではなく「(個社名)タクシーを呼ぶ」という事をより強く意識した作りになっています。
1511	50	運賃先決め注文サービス「たくあしくん」	株式会社タクシーアシスト	清野 吉光	2008年にスタートした運賃先決め注文支援サービス「たくあしくん」の御紹介です！いまやタクシー業界が全体で取り組もうとしている「事前運賃決定」サービスを旅行業の仕組みを活用して全国20のタクシー事業者に提供しております。

12:30～13:30(奇数番号) および 13:45～14:45(偶数番号) はポスター発表の説明時間です。出展者は必ずポスター前に説明員を配置してください。

※指定された時間以外も説明員を配置していただいても結構です。